11 月 12 日　第 44 回 講演会 於 ひと・まち交流館 京都　参加者 31 名

「大文字送り火の継承に向けて」　　**長谷川 英文 氏**（NPO 法人 大文字保存会 理事長）

大文字送り火が灯る大文字山は京都市編入以前から麓で暮らしていた 48 軒の家々が代々所有してきたが、そのうち現在まで送り火行事を行っている家は三分の一ほど（但し現在の保存会員 40 軒は全て旧 48 軒の子孫）である。我々 70 代の子供世代はサラリーマンが多いため、勤め先が市外の企業の場合、送り火を理由に休暇をとることへ理解を得にくいことが目下の課題だ。

不足するアカマツなどの資材の調達も課題である。そのため、年間を通してアカマツを植樹し、生育しやすいような山の整備を進めている。採取は高雄山で行えているが、運搬コストを考えると、遠方からの調達・大量の調達は難しい。これらの管理人材の育成は難題だ。

送り火が終わると翌年用の伐採を始め、若手会員を中心に薪割を進める。サラリーマン生活では使用しない機材を用いるため細心の注意が必要である。送り火直前には、年々厳しくなる猛暑の中、熱中症対策にも気を配りながら、火床周辺の草刈りを会員総出で行う。当日、各家で 2 つの火床を担当するが、組み上げるのに 5 人は必要で、各火床への資材運搬はボランティアが必要不可欠となっている。ベテランボランティアへの会員資格の拡大も検討課題だ。

「京都五山の送り火映像ライブラリについて」　　**福持 昌之 氏**（京都市文化財保護課 技師）

京都五山送り火連合会では、令和 3 年度に映像記録を作成し、公式 Web サイトで公開した。文化庁の令和 2 年度第 3 次補正「地域無形文化遺産継承のための新しい生活様式支援事業」を活用した事業で、五山それぞれ約 15 分の一般向けの映像（ナレーション有）と、準備作業などを撮影した資料映像を約 20 本ずつ製作した。私は連合会の事務局として以下のような背景のもと関わった。

さて、無形民俗文化財には記録保存という考え方があり、報告書（文章と写真）から映画フィルム、そして長時間撮影や伝承用教材など目的別のビデオ映像へと展開されてきた。かつては、映画フィルムが高価なため時間数に制限があり、短編の映画作品となっていた。目的別に複数の映像を作るようになったのは、磁気テープ（ビデオ）の普及以降のことである。現在は、スマホの性能向上や動画編集ソフトの普及で、簡便な個人制作の映像も多くみられるようになった。今回、資料映像の一部は、保存会員が撮影した動画も使用している。ところで、こういった映像の視聴は、かつては市民団体等の上映会向けに映画フィルムを貸与していた。それがビデオテープ・DVD の貸与になり、現在も保護課で DVD 貸出をおこなっている。しかし、VHS 再生機は 2016 年に製造中止、テレビ録画も HDD が主流となり、家庭で DVD の再生すら難しくなった。その点も踏まえて今回は Web で公開することとした。

参考　京都五山送り火連合会ホームページ（左 QR）
https://www.gozan-okuribi.com/2022/ja/top.html
京都五山の送り火映像ライブラリ（右 QR）
https://www.gozan-okuribi.com/2022/ja/library/library.html

＊事務局より追記：P11 に福持様の紹介文も掲載していますので併せてご覧ください

切り絵：松田元